

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 105



令和8年2月10日

今月のキーワード

下野市英語指導者研修会

各学校の取組



令和7年度 第2回 下野市英語指導者研修会

1月19日(月)に、石橋北小学校において第2回下野市英語指導者研修会を開催し、平塚先生とALT ステファン先生に6年1組での研究授業をご提供いただきました。また、講師には東京家政大学 太田 洋先生をお迎えし、指導・講話をいただきました。会場校の先生方にも大変お世話になりました。ありがとうございました。

単元名：Unit6 I want to go to Italy. (Here We Go! 6)

本時の目標：自分たちの旅行先を決めるために、世界の国々でできることや、自分の考えなどについて、伝え合うことができる。

【授業の流れ】①あいさつ→②めあての確認→③教師のデモンストレーション→④表現の確認→活動1→中間発表→活動2→⑤振り返り



デモンストレーションの様子



活動の様子

A:旅行代理店店員 B:客
A:Hello. Welcome to OO.This is Singapore. In Singapore, you can seeOO. What do you want to see?
B:I want to see OO.



活動で使用したフレーズ

★ポイント①「目的・場面・状況の設定」★

単元末の活動として、「10年後、クラスのみんなで旅行に行くとしたら、どの国に行きたいか」というテーマを設定することで、場面設定に必然性や、友達とやり取りをする意欲をもたせる工夫がなされていました。旅行代理店店員の説明を真剣に聞いて、質問に答えようとする児童の姿が見られました。

★ポイント②「デモンストレーション」★

児童が活動を行う前に、教師がデモンストレーションを行うことで、設定した状況を児童に分かりやすく伝えることができました。また、デモンストレーションの後に表現の確認を行うことで、児童は自信をもって英語でやり取りを行うことができました。特に、「I want to~.」の表現の定着が見られました。

～太田先生の講話より～

やり取りを行う際にダイアログ(対話文)を示すことは、児童生徒が活動を行う上での足場かけになります。教師は、単元のゴールや児童生徒の実態、今後の方向性等によって、どの程度足場をかければよいかを考えることが大切です。また、既習の表現をいろいろな場面で繰り返し使うことが、表現の定着につながります。Small Talkに児童生徒を巻き込みやり取りを行うなど、様々な工夫が考えられます。



「英語でコミュニケーションDAY」

各校の取組紹介



今年度、7月中旬～1月に行われた「英語でコミュニケーションDAY」の活動の様子を紹介します。



◆ALT との体験活動◆

細谷小学校や石橋北小学校では、色、動物、果物など、既習の単語や表現を使いながら、ALT と一緒に様々なゲームに挑戦しました。低学年の児童も、グループの仲間と協力して、楽しく活動することができました。



細谷小学校での活動



石橋北小学校での活動

◆ALT とのやり取りを重視した活動◆

祇園小学校や国分寺東小学校では、4年生以上の学年において、チャットタイムを行いました。食べ物やスポーツ、趣味など、学年に応じた様々な話題について、ALT との即興でのやり取りに挑戦しました。ALT の質問に進んで答える姿が見られました。



祇園小学校での活動



国分寺東小学校での活動

◆ALT とのやり取りを重視した活動◆

南河内第二中学校、石橋中学校、南河内小中学校では、キーワードが書かれたワークシートを活用しながら、ALT とやり取りを行いました。教科書の内容や既習表現との関連を図りながら、積極的に英語でコミュニケーションを図る姿が見られました。



南河内第二中学校での活動



石橋中学校での活動

◆教科書との関連を図った活動◆

国分寺中学校では、3年生が授業で作成した「日本文化紹介」のプレゼンテーションを発表しました。ALT とやり取りをしながら発表を行うことで、プレゼンテーションの内容を深めることができました。日頃の学習の成果を生かした活動となりました。



南河内小中学校での活動



国分寺中学校での活動

今年度も、各学校に協力いただきながら、様々な活動を行うことができました。事前の準備や時間割の調整等、大変お世話になりました。次年度も「英語でコミュニケーションDAY」を行いますので、各学校の取組を参考にいただければ幸いです。



文責 石崎 真清